

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3573100434		
法人名	社会福祉法人友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県山口市阿東地福下286-4		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた住み慣れた地域で、職員と入居者が協力し合い、ゆっくりと安心して過ごせるよう支援しています。地域の祭りや盆踊りや行事・イベント等に参加したり、また道の駅に作品を展示してもらい地域の理解が得られるよう努力しています。入居者と職員で調理や掃除、物作り、畑仕事を行いながら共に協力し感謝の気持ちを伝えながら日々の支援をしています。手作りの小物は祭りのときに出店するので楽しみにされています。年に1回「家族の日」を開催し、家族と共に楽しいひと時を過ごされています。午後からは、家族会を行い、要望や意見を聞き一層家族との連携を深めています。日々一人ひとりの笑顔が見られゆっくり・楽しく・和やかに生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の八幡様の祭りや行事、敬老会へ出かけたり、家族の協力を得て盆、正月の外泊やドライブによる一時帰宅や外食等、本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しておられます。年1回の「家族の日」には全家族が来訪され、居室の整理や弁当作り、花の鉢植え、記念写真撮影等、利用者と一緒に、喜びのある時間を過ごされるとともに、家族間での交流を持たれています。地域の祭りや行事に参加され利用者の作品の展示販売をされたり、法人主催の行事への保育園児や地域の方の参加、ボランティアや近隣の方々の来訪があるなど日常的に地域の一員として交流しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域で安心安全な生活が出来るように支援します」と言う理念に基づき実践している。職員は折に触れ意識するようにしているし、ご家族は家族会等で伝えている。	事業所独自の理念を玄関やスタッフルームに掲示し、職員間で共有し日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや盆踊りなどのイベント、利用者と共に参加している。また、食料品や日用品の買い物に地域のスーパーに出かけ近隣の人たちと話をしたりしている。	自治会に加入し、地域の祭りや行事に参加し、利用者の作品を出展したり販売するなど、地域の一員として交流している。法人主催の催しには地域の人や保育園児の参加があり、ボランティアや近隣の人の訪問など、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での実践をふまえて地域に向けて今後は発信していきたいと思っている。地域のイベントに参加する際、入居者の手作り作品を展示したり、販売をして地域の人と交流をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価は、あらかじめ全職員に評価表を配布し、職員会議で話し合い取りまとめている。外部評価の結果を踏まえて改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解しており、自己評価は職員会議等で話し合い管理者がまとめている。評価を通して課題に気づき、記録物の改善等に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人クラブの会長や婦人会長、他ホームの職員、市職員、家族代表などのメンバーで入居者の生活状況、身体状況、行事報告などを報告し、意見や要望、改善点をサービス向上に活かしている。	地域の人や家族、他のグループホーム職員等が参加し、年6回定期的に開催している。活動状況や行事報告、外部評価結果の報告等をして意見交換を行い、そこでの意見はサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議等に市の職員も参加されているので、相談や意見等、また助言などをしてもらっている。	市高齢福祉課、地域包括支援センターとは、介護保険に関することや事例に関する相談等、積極的に情報交換を行い、協力関係が築かれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修(年2回)で職員全体が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束しないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、法人内研修を実施し、職員は正しく理解している。玄関には施錠をせず見守りを行い、常に安全で安心な自由な暮らしができるよう支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修(年2回)で職員全員が理解しており、虐待のないケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修では学んだが、あまり理解できていないので今後、勉強会を開き職員の理解を深めるようにしていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族と一緒に読み見合わせを行い、都度内容の確認を行いながら不安や疑問点について説明し、同意を得るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明記し、法人全体の「福祉サービスに関する苦情委員会規定」で苦情処理に関する手続きを定めている。掲示している。	家族の来訪時や家族会、運営推進会議等で家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議で、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	毎月開催する職員会議で出た意見や提案は管理者がまとめて上申し、運営に反映させている。利用者の受け入れや勤務体制等についても職員の意見を聞く機会を設けている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間、勤務状況を把握し、またやりがいを持って働けるよう環境整備等に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修に参加し、内部研修は新人、中堅、ベテラン段階に応じておこなっている。また研修報告などでスキルアップに努めている。	外部研修は、職員の希望と習熟度に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、年2回の法人内研修は全員が受講して、受講後は復命研修を行い職員間で共有している。事業所内では独自の勉強会や職員間でケアの気づきを助言し合うなど、職場内研修での学びを大切にしている。資格取得も勤務扱いで推奨している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域のグループホーム交流会の活動を通じて、意見交換や情報交換を行いサービスに反映するように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でしっかり情報収集し、本人が求めていること、不安なことを理解しながら、皆さんと楽しく安心して生活が出来るように支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安な事など求めているものを理解し、信頼関係を気づきながら必要なサービスにつなげられるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族との話し合いの中から、必要とする支援を見極め、他のサービスも同様に支援するよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に調理や畑仕事・作業(レク)など行い、日々の生活などを通して教えていただいたり、支えあいながら信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に生活状況や身体状況を伝え、話し合いながら家族と共に本人を支えていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅や外泊等により、今までの関係を保つように努めている。又ドライブや買い物等で馴染みの場所や地域に出かけ関係が途切れないようにしている。	近隣の人の訪問も多く、地元の祭りや敬老会に出かけたり、馴染みの理美容院に行ったり、家族の協力を得て盆、正月の外泊やドライブによる一時帰宅や外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を理解し、職員が情報を共有して楽しく過ごせるよう支援している。またその中で入居者同士で支えあう場面も多く見られる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談を受け支援に努めている。又気軽に来ていただい、継続的な付き合いが出来るように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを日々の行動や表情・言葉の中から、真意を汲み取るように努めている。その人らしく活き活きと生活ができるよう希望に沿った支援をしている。	家族や友人の来訪時の表情や会話、日々のケアの中で思いや意向の把握に努め支援につなげている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集し、本人の生活歴等や生活環境を把握し、生活支援に役立てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ることや楽しいと思える事を、その時の状態に応じて支援し、また本人ペースで和やかに生活出来るよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から思いや意見を聞き反映させるようにしている。スタッフで話し合い、よりよい介護計画を作成をするようにしている。	職員はそれぞれ利用者1名を受け持ち、本人の希望や家族の意見を反映し、職員間で話し合い介護計画を作成している。月1回のカンファレンス、3ヶ月ごとに見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの生活記録の中にケアの実践記録を記入するようにし、スタッフ間で情報を共有し、介護計画の見直しに生かすようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況や生活状況の変化に伴いケアプランを見直し、より質のよいサービスが出来るように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で生活が継続できるよう、推進会議などで民生委員の方や老人クラブ・婦人会の方と意見交換や情報交換をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での協力医の他、利用者ご家族の希望があれば協力しながら、受診や通院介助を行っている。	協力医療機関がかかりつけ医であり、定期的な往診がある。本人や家族が希望する他科への受診は、家族の協力を得ながら受診し、受診結果等の情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られる時はバイタルチェックをし看護士に連絡している。必用な治療や適切な受診を受けられよう連携に努めている。また夜勤状況は毎日ファックスで送っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、体調確認の電話や見舞時に現状の様子を聞きながら情報交換をしている。退院後のことについても相談や助言をしてもらっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合うようにしている。身体状況の変化に伴いその都度説明し、話し合いながら支援に取り組んでいる。又事業所で対応しうる支援方法についても理解を得るように話合っている。	入居時に事業所で対応できる支援方法について説明している。利用者の状態の変化に併せて家族と話し合いを重ね、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、事業所内でもマニュアルを作成し、緊急時に対応できるようにしている。ヒヤリハットを記録し職員の共通認識を図っている。	「事故防止マニュアル」があり、ヒヤリハット・事故報告書に発生経過、内容、対策を記載し職員間で話しあい、事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練また防災訓練を実施している。消防訓練については特に夜間の想定訓練に力を入れている。入居者の安全に努めている。消防署との連携、法人内施設、地域の協力も得られるようにしている。	「防災マニュアル」があり、年2回の消防避難訓練(夜間想定を含む)、年1回の法人の防災訓練を消防分団の協力を得て利用者とともに実施している。法人での災害時の食料や毛布等の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を損ねない様に配慮し、自尊心を傷つけない言葉かけや対応を心掛けている。	職員は、人格の尊重とプライバシーの確保について十分理解しており、自尊心を傷つけない言葉かけや対応をしている。不適切な対応については職員間で話しあい、互いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表出、出来るよう支援し、又十分に意向を聞きながら物ごとを進めていくよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を優先し、声掛けをしたり体調に配慮しながらその日の過ごし方を支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着替える際には、ご本人の選んだ服を着てもらうよう支援をしている。また希望で馴染みの理美容院に行けるように支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや旬の物を取り入れるようにしている。弁当づくりの日は調理や盛り付け等、利用者と共に行っている。職員も一緒にテーブルで食事し、楽しく食べられるよう支援している。	栄養士の資格を持つ職員が献立を立て、地域や家族、職員から差し入れの旬の野菜も取り入れて三食とも事業所で調理している。利用者は準備や調理、盛り付けなどできることを職員と一緒にして、職員も一緒に食べながら食事が楽しめるように支援している。月1回は弁当づくりをし、盛り付けや食べる場所など楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量をチェックすることで栄養の偏りを確認して、不足分を補うように努めている。水分量をチェックしこまめに摂るようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行う。一人ひとりの力に応じ、見守ったり、介助で口腔ケアを行っている。また洗浄も行う。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して、声掛けや誘導することで排泄の失敗を減らし、ご本人の状況に応じた排泄の支援を行っている。	排泄記録で排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら一人ひとりにあった声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、個々の状況に応じた予防に取り組んでいる。朝方バナナ牛乳をすすめている。又活動的に過ごしていただき、自然排便が出来るように支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴状況を把握し、本人の希望を聞き、ゆっくり入浴出来るように支援している。また世間話をしたり、ゆっくり寛いでもらうようにしている	2～3日に1回の入浴となっているが希望すれば毎日でも入浴出来る。14時～16時30分が入浴時間帯であり、2人体制でゆっくりと入れるよう支援している。入浴したくない利用者には声かけなどに工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動的に過ごしていただき、生活リズムを整えるように努めている。寝付けない時は温かい飲み物をすすめたりして、夜は安心して休めるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更があった場合や、本人の状態変化が見られる時は記録を録り、医療との連携を図れるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除等、お願いできそうな仕事を頼みその都度、感謝の気持ちを伝えるようにしている。一人ひとりの楽しみや趣味等も支援をしている。	歌を歌ったり、新聞を読んだり、ぬりえ、貼り絵、脳トレなどの楽しみ事や、洗濯物をたたんだり、掃除、縫い物、編み物、花の苗植え、青しそのジュース作り、弁当作り等活躍できる場面を多くつくり、張り合いと喜びのある毎日が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天気、また本人の気分や希望に応じて散歩やドライブ・食事・買い物等あるいは馴染みの場所や地域に出かけるよう支援している。	中庭やウッドデッキでの日光浴、散歩や季節毎の花見(桜、ゆうすげ、菖蒲、紫陽花)、ドライブでの自宅訪問、地域の祭りや行事への参加、買物などの日常的な外出のほか、家族の協力を得て外食、外泊等の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力や希望に合わせて、外出時や買い物の時は自分でお金が払っていただける様に支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添いながら出来る限り支援している。年賀状や暑中見舞いなど本人に書いてもらうよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが穏やかに過ごせるようよう配慮し、個々の希望や体調を見ながら調整している。季節を感じられる花・飾り付けや写真等で生活感があり居心地のよい空間を工夫している。	天井は高く、天窓からの明かり、掃きだし窓からの日差しで共用空間は明るく、畳の間やソファ、食卓等は気の合った利用者同士の居場所となっており、利用者の作品やプランターの花など季節感があり、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い窓際に丸テーブルを置いたり、長椅子やソファのコーナーがあり好きな場所で寛げるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥・ベッド・椅子やテーブル、写真・飾り・置物など馴染みのある物を持ち込んでもらい本人が落ち付ける空間を工夫している。安心して快適な生活が出来るよう支援している。	居室は畳とフロア部分となっており、押入れが備えつけてあり、テーブルセットやダンス、ソファ、写真、人形等、使い慣れた物を持ち込み落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりやトイレ・浴槽・居室などそれぞれの能力や力に応じて、住環境を見直している。安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日: 平成 23 年 8 月 23 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	28	一人ひとりの生活記録が、ケアプランに関して記入されていないことがある。実情に応じた介護計画にするため生活記録と照らし合わせニーズとサービス提供にずれがないか参考にする。	一人ひとりの生活記録に必ずケアプランに対してどのような実践がなされたか内容を記入する。本人および家族の状況・要望が変化した場合も記入する。	話し合いにてスタッフに再確認をし、意識して記入するようにする。生活記録の台紙に個々のケアプランを挟んでおき見て記入するようにする。	2ヶ月
2	25	家族、本人が必要としている情報収集が出来ていいるか再度見直しを行い、きめ細かな支援ができるようにする。	再度情報収集す。本人や家族・関係者から生活歴や人生史など再確認し、現状に即した介護計画にする。	アセスメントを再度スタッフで話し合い具体化し細かく書き出し、実践することで今後よりよい支援ができるようにする。	2ヶ月
3	34	高齢化に伴い重度化してきているので終末期のあり方について本人・家族と十分に理解を深めるようにする。	本人も家族も安心してグループホームでの生活が出来るように十分に理解を深め終末期を迎えられる様に又支援できるように信頼関係を気付いておく。	契約時と、本人の身体状況(重度化)変化に応じて終末期について話し合い十分理解を深める。また今後文章やアンケートの作成を行う。	2ヶ月
4	42	一人ひとりの食事量・水分量をチェックを行い、栄養のバランスや水分量などの状況を把握し健康管理を行う。。	食事の量や水分量のチェックを行い一人ひとりの状況を把握し栄養の偏りや、水分不足のないようにする。健康が維持できるように支援する。	食事の量や栄養バランス(残食)を確認し状態やに応じて支援する。水分量は一人ひとりの1日の量を確認し、こまめな水分補給を行う。又個々の健康管理票に記入し、身体状況が把握できるようにする。	2ヶ月
	1	一人ひとりの職員が基本理念の内容を理解し、チームでケアに取り組む。	理念に基づき実践を行い、よりよい支援が出来るようにする。職員のペースではなく利用者のペースでゆっくり支援するようにする。	理念についてミーティング時に話し合い、確認をする。職員同士お互いに気を付け理念を意識して実践につなげていく。	1ヶ月
5	41	食事はとても楽しみにされているので一人ひとりの好みを聞きまた力に応じて準備や調理して頂くよう支援する。	食事の下準備や調理などを行ってもらっているが月に1回お弁当作りの日を決めてスタッフと共に弁当作りを行う。	月に1回弁当の日にして、手作りの餃子やコロッケ(沢山作り冷凍しておく)を弁当に詰めていく。目先が変わり少食な利用者の方でも良く食べられる。	1ヶ月

6	36	火災や地震、風水害等の災害時に直ぐ対応出来るように避難方法をシュミレーションを行う。防火訓練時にスムーズに行えるようにする。	年2回の消防訓練・避難訓練を実施しているが訓練方法を職員が、いつもシュミレーション出来るようにし、身につけるようにする。	消防・避難訓練の一連の流れを目につく場所に貼っておく。風水害の危険区域も確認しておく。夜勤時にシュミレーションしてもらうようにする。	1ヶ月
---	----	--	--	--	-----

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。